

様式1-3(統一栽培暦様式)

もっと安心農産物 人参 (トンネル春どり) 栽培暦 (令和5年度)

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥、または緑肥を施用し、土づくりを行う。土壌診断を実施し、適正施肥を行う。

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 化学肥料窒素成分使用量 10kg/10a以下

	肥料名	施肥量
基肥	①スーパー人参ブリケット(6-8-8 有機態窒素 3.6)	200kg/10a以下
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素4.1)	200kg/10a以下
	③ちばみどり有機888(8-8-8 有機態窒素 1.2)	140kg/10a以下
※必要に応じて施用	苦土石灰(アルカリ分55%)	80kg/10a以下
	苦土重焼燐(0-35-0)	80kg/10a以下
	マルチサポート1号(総合微量要素)	60kg/10a以下

※土壌分析により施肥量を加減する。

3. 防除 化学合成農薬 6成分回数まで

(Zボルト・スピノエース顆粒水和剤・ホリオキシAL水和剤・ゼンターリ顆粒水和剤・ジーファイン水和剤は化学合成農薬に含め)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈 倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考 (耕種的防除の実施)		
12月上旬	ロータリー	(センチュウ・ネキリムシ) (鱗翅目害虫 黒葉枯病)	①ネマトリンEース粒剤	は種前 15~20kg/10a	1回	ネコフセンチュウ	ネコフセンチュウの多い圃場は作付けを避ける		
中旬									
下旬	施肥								
1月上旬	は種トンネル被覆		②フォース粒剤	は種時 4kg/10a 作条土壌混和	1回	ネキリムシ類	圃場周辺の除草を実施し、雑草・害虫の発生を低減させること。		
2月				は種前 4~12kg/10a 全面土壌混和					
3月上旬	間引き								
中旬	換気							蒸葉枯病防除剤 発生が見られた場合: カスミホルドー 1000倍(収穫14日前・2回) ストビーフアブル 2000~3000倍(収穫7日前・3回) ロフラル水和剤 1000倍~1500倍(斑点病対策含む)(収穫14日前・4回)	
下旬	機械除草								
4月上旬	トンネル除去		③ベルコート水和剤	1000倍 (収穫14日前迄)	5回	菌核病	アブラムシ類防除剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍(収穫7日前・2回)	
中旬				500~1000倍 (収穫14日前迄)					オオタバコガ
下旬				1000倍 (収穫前日迄)					
5月上旬	収穫		④アフーム乳剤	2000倍 (収穫前日迄)	3回	ハモグリバエ類	ジーファイン水和剤 うどんこ病750~1000倍 白さび病1000倍 (収穫前日・-) ホリオキシAL水和剤 500倍(収穫7日前・5回) スピノエース顆粒水和剤 5000倍(収穫3日前・3回)		
中旬									
下旬									

☆みんなで守ろう生産基準